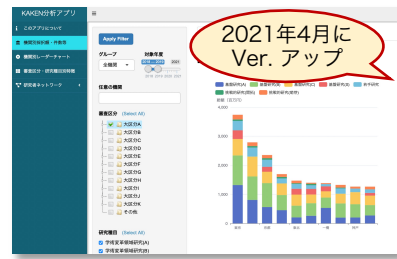


# 機関を超えたURAによる 産学連携等実施状況を分析するための Webアプリケーションの開発

\*久保琢也 (横浜国立大学 研究推進機構)  
Hansen Marc (東北大学 研究推進・支援機構)  
平井克之 (新潟大学 研究企画室)  
間宮るい (茨城大学 研究・産学官連携機構)  
\*kubo-takuya-xv@ynu.ac.jp

## 1 概要

昨年度の第6回RA協議会年次大会で、第一発表者の久保は研究力分析のためのWebアプリケーション開発の取り組みを報告した(右図)。しかし、来場者からもコメントがあった通り、取り組みの発展的な継続性が課題として残された(<https://researchmap.jp/kubotaku/presentations/30123829>)。これを受け、その後は民間企業による助成金の獲得や、R言語の勉強会を通じた裾野の拡大とともに、共同開発者を募ることで、取り組みの継続性にも取り組んできた。本発表では発表者らが現在開発を進めている、文部科学省による「大学等における産学連携等実施状況について」のオープンデータを用いた分析ツールを紹介するとともに、URAとして機関を超えた共同開発を行う上で困難だった点や学びを報告する。



<https://takuyak0625.shinyapps.io/KAKEN-App/>

## 2 これまでの歩み (2020年10月～)

### ■ 活動資金の獲得

- ・ 時期：2020年10月
- ・ リバネス研究費「日本の研究.com賞」
- ・ 金額：50万円
  - レンタルサーバー数年分
  - 図書
  - 消耗品



### ■ R言語の勉強会を主催

- ・ 時期：2020年10月～2021年3月
- ・ 対象：C4RAメンバー 各回10名前後
- ・ 方法：オンライン (10週×2回=20回)
- ・ 内容：
  - データインポート
  - データの整理
  - データの可視化



### ■ 共同開発の開始

- ・ 時期：2020年12月～現在
- ・ C4RAから3名が参加 (勉強会にも参加)
- ・ 開発の流れ
  - 必要な機能の検討
  - 元データの特徴を精査
  - データクレンジング
  - 各自の視点で分析 (試行)
  - R shinyで実装



## 3 成果物 (開発中) : 産学連携実施状況分析ツール (<https://takuyak0625.shinyapps.io/Sanren-App/>)

### ■ なぜ産学連携実施状況か?

#### 産学連携の重要性

- ・ 研究者にとって自身の研究の発展や社会還元で重要。
- ・ 大学にとっては地域貢献の推進や間接経費増等のメリット。
- ・ 政府目標として、2025年度までに企業から大学・国研への投資を2014年度の3倍 (日本再興戦略2016) としている。

問題意識：産学連携に取り組もうにも、まずは、自分の大学の現状が見えているか？

自大学のパフォーマンスは他大学と比べてどうか？産学連携が活発な大学と何が違うのか？

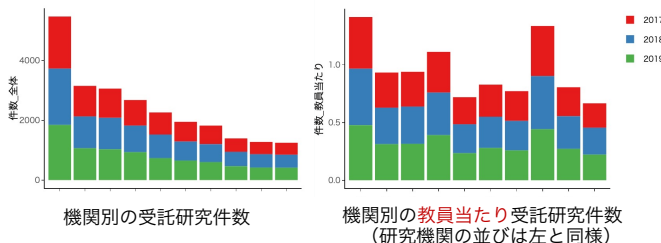
### ■ 使用データ：公開データ

- ・ 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」のオープンデータ ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/angaku/sangakub.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/angaku/sangakub.htm))
- ・ 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」 (<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>)

大学基本情報を掛け合わせることで大学のサイズに依存しないパフォーマンスを見たい



### ■ 機能例



単純な件数や受入額だけでなく、教員数等を考慮に入れた上で研究機関の比較が可能

### ■ FAQ：で、結局なんの役に立つの？

- ・ 研究IRでは「現状を知るための調査・分析」に始まり、その原因の探索や、候補となる施策の検討等が行われる。
- ・ このような研究IRの一連の流れの中でも、本取り組みで開発するアプリは主に「現状を知るための調査・分析」への活用を想定 (※公開データだけでこれ以上は限界)。

<研究IRの流れの一例>



## 4 学びや課題

### ■ 学び

- ・ オンラインコミュニケーションだけでも、十分に勉強会からチーム組成、アプリ開発が可能であった (まだ直接顔を合わせたことがないメンバーも)。
- ・ 共同開発では気づきの量・質が高く、そして、何よりも楽しく取り組むことができた。

### ■ 課題

- ・ 本業であるURA業務に加えて本取り組みを行う時間的な制約、各人のスキル、開発環境の差等を考慮した上でのプロジェクトマネジメントは特に今後の課題

## 5 お願い

- ・ 【ご意見求む】 成果物は誰でも無料でご利用いただけます。自由に使っていただき、不備や改善点等ございましたら発表者まで遠慮なくお知らせください。
- ・ 【協力者求む】 取り組みの維持・発展のためには多くの方のご理解・ご協力いただくことが重要だと考えています。もし、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、発表者まで遠慮なくお知らせください。



ご協力のほど、何卒よろしくお願いたします

## 謝辞

本取り組みはリバネス研究費「日本の研究.com」賞の支援によって実施しています。ご支援をいただいた株式会社バイオインパクト、株式会社リバネスにこの場を借りて御礼申し上げます。